

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

題字 前総裁三笠宮崇仁親王殿下

2012

11・30

No.40



友愛十字会で実施した職員研修でのご講話

主 な 記 事

- | | | |
|------------------------------------|--------|-------|
| ○— 総裁寛仁親王殿下を偲ぶ —…………… | 会長・理事長 | 佐々木典夫 |
| ○「障害者福祉」が絆のご縁 — 寛仁親王殿下を偲んで — …………… | 理事・評議員 | 板山賢治 |
| ○総裁寛仁親王殿下を偲んで …………… | 専務理事 | 石井晃 |



— 総裁寛仁親王殿下を偲ぶ —

社会福祉法人 友愛 十字架

会長・理事長 佐々木 典夫

最初に、友愛十字架会第二代総裁として三十八年の永きにわたってご高導を賜った寛仁親王殿下のご薨去を悼み、深甚なる感謝を捧げ、衷心からご冥福をお祈り申し上げます。

「三笠宮家寛仁さまご逝去」、「ひげの殿下」

がん手術「六六歳 障害者福祉 スポーツ振興」の大見出しで、寛仁親王殿下のご薨去を報ずる読売新聞の悲しい号外を、私は六月六日夕方、T 駅で手にしました。先立つて、金井理事から第一報がありました。実はこの日は療養が長引く殿下のご快癒を願って、石井専務が友愛十字架会としてお見舞いをお届けしたところでした。残念ながら、もはや殿下のご遺徳を偲び、ひたすらご冥福をお祈りするほかなくなりました。

弔問が可能との報が入りましたので、翌日七日午前十時に石井専務、墨野倉常務、金井理事と宮邸に参じ、記帳をし、彬子女王殿下、瑤子女王殿下に見守られる無言の寛仁親王殿下にお目にかかりました。「殿下ご無念と存じます。永年ありがとうございました。」と、只々頭を垂れてお別れしてきました。

六月のお通夜と斂葬の儀（葬場の儀）は、石井専務と私が参列しましたが、九月十三日に行われた百日祭には、希望して墨野倉、金井も加わり、常任三理事と私が参列し、拝礼して参りました。

友愛十字架会は、昭和二十五年九月に身体障害者の更生援護を行う団体として設立されました。発足もない昭和二十六年三月に三笠宮崇仁親王殿下を名誉賛助員として、昭

和二十八年十一月からは初代総裁としてご推戴申し上げ、昭和四十九年七月から寛仁親王殿下を第二代総裁としてご推戴申し上げて今日に至りました。創立六十二年になりますが、寛仁親王殿下には、実に三十八年にわたってご高導を賜って参りました。

総裁寛仁親王殿下から友愛十字架会が賜ったお力添え、ご指導は多岐にわたり、また長期に継続し、簡単には言い尽くせません。後掲の別添「総裁寛仁親王殿下と友愛十字架会の関わり」は箇条書き的にまとめたものですが、これもほんの一端を示すに過ぎません。

私は友愛十字架会にご縁を得て九年半で、殿下の総裁ご在任の四分の一に過ぎませんが、殿下のお人柄に接した思い出ははずれも忘れ、難しいものばかりです。いくつか絞って記し、鋭さ・厳しさと優しさ、ユーモアと温かさを併せ持たれた人間通の在りし日の殿下をお偲びしたいと思います。

就任ご挨拶

友愛十字架会理事長就任に先立ち、寛仁親

王殿下に初めてご挨拶にお伺いしたのは平成十五年五月二十一日夜でした。私は自己紹介を兼ねて、厚生省時代に携わってきた仕事などを申し上げたところ、殿下は話を合わせてくださり、厚生省の先輩などを話題にされましたが、大変辛口の厳しい人物評が多くて参りました。

やがて、あなたは伝統ある友愛十字会の七代目の理事長だ。役員会などには出ずに任せている。友愛十字会を大事にし、福祉推進のリーディングカンパニーとしてほしい。・親父（三笠宮様）が友愛十字会の初代総裁に担がれたいきさつは分からないが、親父は歴史学者。私（寛仁親王殿下）が福祉をやることが分かって昭和四十九年に総裁を頼まれた。私はスキーマの指導者で体育会系だ。（机上の福祉は嫌いで）福祉の現場監督だ。・障害者スポーツに関して、厚生省所管の身障スポーツ協会の障害者の中だけでの障害スポーツでいいのか？、オリンピック選手が出るくらいであるべきだ。また、なぜ、合同運動会をやるのか、障害者だけでなく皆と一緒にやるのが大事等々を、率直に語ってくださいました。また、

身障友の会の片岡みどりさんのこと、仙台のありのまま舎の山田富也さんのことなどを熱く語ってくださいました。

いつの間にか二時間近くが過ぎ、おいおい家族も紹介しよう、当面は合同運動会だな、永田宮務官に挨拶していきなさい、とほっとするお言葉で締め括ってくださいました。

殿下からお話をお伺いしている内に緊張が少しずつほぐれ、役員会の承認が得られたらできる限りの努力をしてみたいとの気持ちが強まったことは、昨日のように覚えております。

御前での挨拶

殿下がご臨席の行事での挨拶は、大会場の壇上からの挨拶自体に慣れていないこともありませんが、何よりも御前での挨拶ゆえに毎回格別の緊張を伴いました。

中でも忘れたがたいのは、最初の合同運動会と昨年十一月の宮様チャリティーボウリング大会でした。合同運動会の開会式では、挨拶事項を頭に入れて、自分の言葉で、手話通訳もあるので、間合いを置き、ゆつくり話すように心がけました。閉会式後引き続き行われ

た殿下もお出ましの反省会で、新米の理事長にも最後に発言が求められましたので、「このように愚直と思えるくらいに真面目に反省し、次回に生かすことに感心した」といった趣旨を述べました。殿下が三十年近く主導してこられたのに「愚直」はまずかったな、と思いましたが、お車までお送りする道すがら、「スピーチはうまいので安心したよ」とお声をかけてくださった。朝の開会式の方が、反省会での愚直発言の方が分りませんでした。が、頑張つて会長職を務めなければと思ったものでした。

宮様チャリティーボウリング大会では、日本ボウリング場協会長らと殿下をお迎えし、随従して決勝戦を観戦し、表彰式でチャリティー基金を頂戴し、最後のレセプション時にお礼の挨拶をするのが会長としての役回りでした。

昨年の大会は、殿下から、声が出なくなっているのを表彰式でのご挨拶なし、とのご意向が示され、主催者のボウリング場協会から代わる方策の要望があり、友愛十字会会長が冒頭の挨拶をすることとなりました。殿下からは、十四回のがんの手術で声が出なくなつたことをきちんと述べるようにとのことでし

たので、石井専務との合作の挨拶要旨も事前にお届け申し上げました。それまでは、いずれも自分の挨拶でしたが、この時は殿下がなされないための冒頭の挨拶でした。メモを見

ながらやればよかったのですが、ポケットにしたまま挨拶に立ったところ、いつにない緊張で、いわゆる上がってしまった感じとなり、我ながら出来がよくありませんでした。お帰りのエレベーターの中で、殿下はヴァイブラーターを使われて「今日は七〇点と私の顔を見据え、にやりとお笑いになっておっしゃられました。今日はどうした、いつもと違うではないか、と不合格のところをやさしく七〇点と言ってくださったのか。殿下は一年半前の「ゆうあい」に、「えらく『忘れっぽく』なって、愛のコンサートの主催者挨拶で障害福祉の基礎的な単語『電動車いす』が三十秒以上出てこないのは冷汗をかきました。仲間たちは『間をとっているのだと思った！』と言ってくれましたが、出てこなかっただけなのです。」と書かれていました。とちった四歳年上の私への同情をお感じになられたのかもしれない。私は、失敗だったと落ち込んでいましたので、ご真

意は分かりませんでした。今日は七〇点には救われました。この時が殿下に親しくご指導いただく最後になってしまいました。

友愛十字会の名前の由来

新年の一月五日は殿下のお誕生日で、毎年、お祝いの記帳にお伺いしました。応接室に通されてお祝い膳をご馳走になったこともありましたが、何分錚々たるお客様がいらつしやるのでお祝いを申し上げるだけで、失礼することもありました。今年は、ご入院中でしたので、応対された彬子女王殿下にご挨拶を申し上げ、直ぐに失礼しました。

その後、ご入院が長引いていましたので、心配の日が続きました。五月九日に宮邸の小倉主査を通じ、寛仁親王殿下より「日米戦争後、ハワイの日系人から救援物資が届き、その受け取り手としての組織が出来「海を越えた太平洋をまたがる両国の友情という処から『友愛』という言葉と天にきらめく『十字星』から『友愛十字会』となったはずだ！」とのファックスが届きました。

実は、二年前、友愛十字会創立六十周年に

寄せる原稿を書いている時に、友愛十字会の名前の由来を調べましたが、設立の準備段階で「萬寿会」と仮称してきて最終的に友愛十字会となったことは分かったものの、「どうして『友愛十字会』なのか」が結局分からず、殿下にお伺いしていました。しかし、殿下の厳しい闘病は長引き、諦めかけていたところでしたので、殿下の友愛十字会への厚い思召しに、大感激いたしました。

ご著書、ご講話等から教わったこと

殿下のご著書、ご講話、毎号欠かさずご執筆賜った「ゆうあい」や柏朋会の機関誌の殿下の巻頭文などから、教えを受けたことも沢山ありました。

人の生き方に関しては、殿下は「当たり前のことを当たり前にする」ことを重んじられ、原理原則、常識、教養、品格、身嗜みなどを大事にされたことです。それには、読書と討論と自分自身で「考える」ことと、(ＩＴ機器に頼らず、)人間の最も重要な人格形成や能力開発を司る前頭葉前野を鍛えることの重要さを、折に触れて強調されました。殿下は愛用のパツ

グに辞書と筆記用具を離さず、手書きを徹底されていたようにお見受けしました。殿下は自己に厳しく、前頭葉前野を鍛える努力を実践され、見事に人格を高め、「物書き」のプロや「福祉の専門家」と自負される実力も培われたものと思います。

福祉の分野に関しては、理念が明確で、実践的なことです。医学的な判断で障害者と認定する考え方に一定の理解を示されながら、障害者、健常者と二つに分けて障害者は弱者と捉えがちな風潮を排し、「すべての人間は、障害の部分と身体や心の中に持つていて、なおかつ健常なる部分をも併せ持つて生きている」との考え方で、人ごとに障害を部門別に丁寧に対応する必要性を説き、そのうえで、これからの福祉充実のキーワードは、「自立（自助努力）」と「共に生きる」であると明快に説かれておられます。

また、国や自治体の財政難などから厳しさを増す今後の社会福祉事業の経営についても「為せば成る、為さねばならぬ何事も、為さぬは人の為さぬなりけり」（上杉鷹山）を引用され、ま

間は民間なりに汗水垂らして地道に「自助努力」することの大切さを説かれた。講話もありました。肝に銘じなければならないことであります。極めて主観的な殿下の思い出の一端を書き連ね、紙数をとりました。

最後に、友愛十字会総裁寛仁親王殿下から賜った、言葉では尽くせないご高導に重ねて思いをいたし、友愛十字会が、今後とも福祉業界のリーディングカンパニーをめざし、七十五年のダイヤモンドジュビリーを祝えますように、役職員一丸となって、時代の変化に対応した諸事業の堅実な推進にあたることをお誓いして、総裁寛仁親王殿下への追悼の言葉といたします。（了）

別添

『総裁寛仁親王殿下と友愛十字会の関わり』

一 昭和四十九年七月二十六日

初代総裁三笠宮崇仁親王殿下が、「中近東文化センター」創設に全力を尽くしたいとの理由で、総裁を辞任された。後任として寛仁親王殿下（以下「殿下」という。）

を、ご推薦賜ったので、新総裁にご推戴した。

二 昭和四十九年十月九日

特別養護老人ホーム「友愛荘」（町田市）が完成したので、殿下のご臨席を仰ぎ開所式を挙行した。

三 昭和五十年四月八日

殿下を審査委員長として、日本チャリティ協会と共催で第一回全国心身障害者（児）芸能コンクール（愛のステージ）を東京厚生年金会館で毎年一回開催した。

平成十一年十月十六日、第一部が殿下の基調講演、第二部は、過去の入賞者の実演と、その指導者の経験談や各分野の専門家の意見を聞く、「愛のステージ二十五周年記念フォーラム」（会場はイイノ・ホール）の開催を最後に、「愛のステージ」は二十五周年の幕を閉じた。

四 昭和五十年十月十二日

殿下を実行委員長として、身障友の会、身障友の会応援団（後の柏朋会）と友愛十字会が合同で第一回合同運動会を世田谷区立総合運動場体育館で開催した。毎年一回実施して、共催は十団体に増加して

現在も継続中である。平成二十四年度は第三十七回大会を九月三十日に開催した。昭和五十二年一月二十七日～三十日

殿下のご発案で始まった身体障害者スキー教室は、第一回を長野県北志賀・竜王スキー場で実施した。以来、殿下とコーチで毎年行い、平成二十四年二月十九日～二十一日の第三十五回をもって終了することとなった。

六 昭和五十六年十一月六日

国際障害者年記念事業の一環として、世田谷区の法人本部において、殿下を囲み、地元の行政、団体、地域住民の関係者と、地域交流懇談会を開催した。

七 昭和六十二年八月十一日

五月一日付で友愛十字会ハワイ支部は解散し、殿下ご署名の感謝状をハワイ支部会員二十七名に贈った。

八 平成四年五月十二日

世田谷地区施設整備事業の完了に伴い、総裁寛仁親王同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、落成記念式典を挙行了した。

九 平成九年五月十四日

殿下は、友愛十字会で実施した職員研修で、「福祉について」のご講話を賜った。ご講話後、施設利用者に励ましやいたわりのお言葉を賜った。

十 平成十一年十一月四日

殿下のご臨席を仰ぎ、友愛荘開設二十五周年記念式典を挙行。殿下に「我が国の福祉」と題する記念講演を賜った。

十一 平成十二年十一月二十七日

初代総裁三笠宮崇仁親王同妃両殿下並びに第二代総裁寛仁親王同妃両殿下のご臨席を仰ぎ、新宿・朝日生命ホールで、当法人関係者、利用者、来賓等、約六百名が参加、友愛十字会創立五十周年記念式典を挙行了した。同日午後六時より、殿下主催の創立五十周年記念の夕べが、赤坂御用地の東邸で開かれた。当法人の関係者百五十名が招待されて、創設五十周年を祝福した。

十二 平成十七年九月二十八日～十年六月

(財)中近東文化センター(総裁三笠宮崇仁親王殿下)が、トルコに建設した「アナトリア考古学研究所」の落成式に、建

設募金委員会(委員長寛仁親王殿下)より参加要請を受けた。当法人から常務理事を参加させた。



友愛荘開設 25 周年記念式典にて



「障害者福祉」が絆のご縁 ——寛仁親王殿下を偲んで——

理事・評議員 板山 賢治

(社会福祉法人 万葉の里 理事長)

九月のある日、友愛十字会の金井事務局長から「総裁宮殿下を偲ぶ一文を」という依頼を受けました。「何故、私に」と問い返したところ「あなたは、友愛十字会の役員を三十年余り、殿下の会長をされていた柏朋会の会員も長いことから」という石井専務からの返事。「往時茫茫」、記憶も定かでないことを危惧しつつ「障害者福祉」という絆にみちびかれるままに殿下にお声をかけていただいたり、ご一緒に取り組ませていただいた事などを書きつらねて責を果たしたいと考えました。

「心身障害者（児）芸能コンクール」が最初

私が殿下から初めて障害者福祉に関連してお呼びいただいたのは、「第六回全国心身

障害者（児）芸能コンクール」の審査員としてでありました。昭和五五年六月、当時私は、厚生省の更生課長でありましたが、会場の明治神宮会館は、熱気にあふれ、殿下を中心に神津善行委員長をはじめ錚々たる審査員が居ならば本格的なコンクールでした。コンクールには、四年連続出席しましたが、進行性筋委縮症の女性が「年々声が出ていくようになりますが、声の続く限り歌い続けます」とたんとんと話していた言葉が今も耳に残っています。

昭和五六年には、中野サンプラザで「国際障害者年記念・愛のステージ」を開催していただきましたが、会長殿下の「人は皆健康者であると同時に障害者でもある。愛のステージの見事さを忘れないように」というご挨拶

が印象に残っています。

昭和五七年三月、イギリスから王室チャリティ協会会長女史の来日に際し、障害者団体リーダーとともに九段下の飯宮邸にお招きいただいたこともありましたが、その五月、私は三十二年余の公務員生活に別れを告げて、母校の日本社会事業大学に移りました。その七月には、殿下が総裁をつとめられている友愛十字会の評議員に、そして柏朋会会員に参加させていただいたのです。仄聞するところ、かねて、殿下は、「役人臭」を嫌っておられたとか。そのため友愛十字会の役員等の選任には神経を使われたという話が残っているといえますのに……。

それは、昭和六一年六月のある日のことでした。「三笠宮だが」というお電話をいただき青山の宮邸に参上しました。「カナダの車イスの青年が、世界一周の途次、今、オーストラリアにいる。シンガポールを経て旬日にして日本に来る。日本で三千km位を走りたいといっているが、知恵を貸してほしい。」というお話。早速、身体障害者スポー

ツ協会の井出常務理事、友愛十字会の加藤理事長、八代英太議員などに加わっていたとき、青山の宮邸を作戦本部として計画を練ったものでした。

当初の「東海道案」から「北海道内の回走、そして東北道を経て東京へ」で約一千六百公里を実現する計画に変更。警察庁、関係都道府県、障害者団体、マスコミ等の協力により見事に完走することが叶ったものでした。「実は、日本・カナダの協会は、高円宮の領分だが、障害者のことだから僕が代わりに受けとめたんだよ。ご苦労をかけたね。」という最後のおことばに殿下のお心くばりと障害者福祉へのこだわりの強さを痛感したものでした。

昭和六二年九月には、殿下の主宰されていた仙台・ありのまま舎（山田富也所長）での「生活福祉講座」の講師を仰せつかりました。

この講座は、仙台市内の有識者を対象に、「生活と福祉」とりわけ障害者問題の啓発、普及を目指す学習会で、終了時には、座長

である殿下の終了証書が受けられる本格的な市民講座でありました。講師陣もなかなかのもので下村泰参議院議員、秋山ちえ子さんや黒柳徹子さんなどの名前が並んでいたように覚えていますが、私は、「暮らしの変化と社会福祉」というテーマで話したように思います。

もう一つ殿下にご出馬を願ったことがあります。昭和五六年の「国際障害者年」につき昭和五八年から「国連・障害者の十年」が展開されてまいりましたが、その最終年にあたる平成三年春から有志の間で「日米障害者協議会」の結成が議論されるようになりました。

「障害者の十年」を総括するとともに「自立生活運動」や「障害者政策の動向」等に関する情報交換や体験交流の輪を広めようという計画でありましたが、殿下に「名誉総裁」ということになりお願いしたところご快諾をいただいた次第です。

第一回のアメリカ・セントルイス会議への出席に際しては、八代団長ほか数名をご

家族お揃いのうえ青山のレストランで壮行の席をおもちゃいただいたことが今もなお語りぐさとなっています。この協議会は、五回にわたり日米の持ちまわりで開催されたのですが、日本開催の都度、ご臨席を賜ったものです。

正に「往事茫茫」であります。が、「障害者福祉」を絆に殿下とのご縁について述べてまいりましたが、悲しい思い出もあります。

平成元年二月の某日、お電話を頂戴しましたが、それは、昭和天皇の「殯宮の儀」に参列するようというお招きでありました。謹んで列席させていただきましたが、あの厳粛・静謐の祈りの一時は、今もなお忘れ得ません。

透徹した「障害者観」

殿下は、かねがね透徹した一つの障害者観をもっておられました。それは、柏朋会の機関誌に連載される「とどのおしゃべり」などでしょうか。これが出来ましたが、たま

Fellowship」の会長としての「共に生きる―柏朋会のところ」は、正に殿下の「障害者観」の真骨頂のように思われますので、その一部を引用させていただきます。

「我々は、弱者救済の福祉ではなく、『障害者＝弱者』と認定されがちな我が国で『弱者と思われるけれど磨けば光る球であるならば、積極的に支援の手を差し伸べる』をモットーに『自ら自立のために真摯な努力を積み重ねている人々』に対して、ヘルプとサポートを惜しみません。統計上、圧倒的に多い健常者が更生している社会に『磨くこと・磨かれること』によって、我が国にとって有用な人になってほしいからです。健常・障害を問わず、一人一人が真の意味で強者になってもらうことが、究極の目的です。』

ここには、表現こそちがえ、今日の障害者観を支える「ノーマライゼーション理念」や『リハビリテーション思想』に裏打ちされた障害者観が明らかにされています。最後に殿下は、「一人の例外もなく、我々人間は、皆『健常者』でもあるのですから。」と結ばれ

ているのであります。

殿下が十数回の入院・手術をのりこえられ、失われた声を「ヴァイブラーター」による発声訓練(VT)を二月十日(木)夜七時半から九時半の吉永女史を一号として延べ三〇五名の老若男女に付きあってください「実践され、見事な生涯を全うされたことに通ずるものとして深い感銘を覚えずには

おられません。

ひろく人を、とりわけ障害者を愛され、そのしあわせ実現に心をお寄せいただいた殿下にお別れをして寂しさひとしおのものがあります。

衷心よりご冥福を祈りつつ、近いうちに豊島岡御墓所にお参りすることをお約束して攔筆。



平成2年5月12日世田谷施設落成式にて



総裁寛仁親王殿下を偲んで

社会福祉法人友愛十字会
専務理事 石 井 晃

寛仁親王殿下は、友愛十字会の第二代総裁として三十八年間、当法人の事業発展にご尽力を賜って参りました。

殿下は、平成三年一月一九日に下部食道癌が発見され、第一回の手術をなさってから十六回

もの手術を繰り返される厳しいご闘病の中での活動でした。昨年十二月に右下顎部の腫瘍が見つかり、一月に杏雲堂病院で喉と口腔などの切除をお受けになりました。その後の経過は良くなかったようで、三月に再手術をなさいましたが、二十一年間の癌との闘いの結果、六月六日、午後三時三五分、多臓器不全のため、公益財団法人佐々木研究所杏雲堂病院でご薨去されました。心より哀悼の意を表します。

殿下は、今上陛下の御従兄弟に当られ、皇位継承順位は第六位でした。「ひげの殿下」の愛称で親しまれ、「トモさんのえげれす留学」、「皇族のひ

とりごと」、「雪は友たち」、「思い出の昭和天皇(共著)」、「いのちの時間(共著)」、「癌を語る」、「ジェントルマンの極意」などのご著作があります。

殿下から賜った多くのご教導の一端を記して、思い出を偲ぶこといたします。

現場監督と役員選任

私が友愛十字会に就職した昭和三十六年当時の三笠宮邸は、品川区上大崎長者丸にありました。昭和四五年十一月に赤坂御用地の新宮邸へお移りになられ、殿下が現在のお邸にお入りになられたのは、ご成婚後の昭和五七年十二月でした。

殿下には、通常ではとても得難い、様々な経験やご指導、ご助言を賜りました。常に緊張感がありましたが、今日まで何とか役目を果たすことができ、私にとって人生最大の幸

運をいただいたことを深く感謝しています。

殿下は、「法人業務は理事長と常務理事に任せて、現場監督を引き受ける。しかし、役員選任だけは必ず報告せよ」との仰せでした。選任に当たっては、「年齢は私より若い人であること。社会的に名のある人であっても、誰かに推薦された人というだけではなく、会の発展に真に力になってくれる人であることを見極めるため、直接会って話し合うように」と念を押されました。法人事業をお任せになりながらも総裁として役員選任にもお心配りを賜る殿下には心より敬服いたしました。

機関紙「ゆうあい」の発刊

当法人は、機関紙「友愛だより」を昭和四一年から発刊していましたが、十三号で休刊していました。再刊に当たり、殿下が編集顧問をお引き受けになり、草原常務が発行責任者を務めることになりました。

題字の「ゆうあい」は、前総裁三笠宮崇仁殿下の御手になるものです。創立記念日の昭和五九年九月二五日に第一号を発行いたしました。

殿下は「書くことは嫌いではないから毎回書いても良い」との仰せで、ほとんど毎号巻頭言をお書き頂きました。

編集に当っては、「読んでもらえるような内容でなければならぬ」こと。英語のVは、ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォとすることについて、強いご注意を受けました。例えば、Event（行事）はイヴェント、Volunteer（ボランティア）はヴォランティアなどです。私も、職員共々うっかりしてボランティア、サービスと書いてお叱りを受けることが度々でした。

合同運動会の開催

当法人の世田谷施設では、昭和四八年頃から世田谷総合運動場で運動会を実施してまいりました。その運動会をご高覧頂いた折、殿下から「私は身障友の会（後に柏朋会となる）の応援団長をしているので、来年は一緒にやろうではないか」とご提案をいただき、昭和五〇年十月から合同の運動会を始めることになりました。御自ら企画に加われ、モットーは「障害がある人もない人も、お年寄りも加わって、秋の

一日を楽しく過ごそう」に決めました。初めてのうちは身障友の会と友愛十字会だけでしたが、参加団体が徐々に増えて、今では地域の障害者団体、ガールやボーイスカウト、日体大社会教育研究会、学習院大学應援団など十団体で実施する運動会になっています。

参加者は必ず一種目以上出場することとし、殿下ご自身も選手で真剣に勝負をなさいます。反省会では、「血を見るような激しい競技をしようよ」との仰せで、騎馬戦や棒倒しも検討しました。戦前の海軍兵学校などのそれをイメージなさっておられたのでしょうか。結局、障害のある人達が参加する競技には無理だと諦められました。

また、或る時、柏朋会の運動会担当幹事が、障害者中心の競技にすることを提案したら、殿下は、「そんな軟弱な運動会を考えているのなら、止めてしまった方がいい」と大層ご機嫌斜めだったそうです。運動会を始めた目的として、「人は誰でも日々身体を鍛えなければならぬ」、「障害を持つている場合、健康な者に伍して生きるためには、三倍のトレーニングが

必要である」との理念をお持ちでした。

過去三十六回の運動会の中で大きな怪我人は出ていませんが、唯一、競技でゴールキーパーを務められた殿下だけが突き指をなさいました。そして、「大阪まで治療に行ったよ」と屈託がない笑顔で話されたことは、思い出深いエピソードの一つです。

スキー教室を実施

殿下から、「スキーは、私が一番好きなスポーツだから付き合えよ」とのお誘いをいただき、昭和五二年一月に第一回目のスキー教室を長野県北志賀の竜王スキー場で実施することになりました。元全日本学生アルペン複合チャンピオンの笹川雄一郎氏（故人）が経営する笹川ロッジが合宿所でした。施設の障害者十名と職員四名が、夜行バスで出発し、当時は高速道路もなく時間もかかって明け方に到着し、ロッジで仮眠。朝食後にスキー教室。

殿下御自ら利用者のスキーの先端をお支えになり、前かがみのバックボーゲンでピステを滑る大変なご指導でした。ナイターで職員へ

のスキー特訓があり、スキー一色の日程ですから、上達も目覚ましいものがありました。

北志賀竜王七回、北竜湖三回、車山六回、玉原六回、湯澤NASPA十三回、各スキー場で計三十五回の教室を実施し、うち十八回は殿下御自らのご指導を頂きました。就寝前には殿下の経験談などを伺うことができ、参加者には大変有意義な行事でした。

殿下は喉頭気管分離手術でカニューレを喉に装着されてから、残念ながらスキーへのお出ましがなくなりました。大変残念に思っています。

このスキー教室では、コーチ、ヴォランティアなど、多くの方々と知り合うことができたことも大きな成果でした。スキー教室をご提案下さった殿下には、心より感謝です。

宮様チャリティーボウリング大会

昭和四二年四月から当法人の主催で、三笠宮杯争奪チャリティーボウリング大会が開催されています。優勝者には、初代総裁三笠宮崇仁親王殿下のカップが男女に授与される、

全国的なアマチュア大会でした。寛仁親王殿下が総裁にご就任なさってから大会の見直しをご指示され、主催は日本ボウリング場協会になり、名称も宮様チャリティーボウリング大会と改称されました。

また、チャリティーの大会には障害者が入るべきだとのお考えがあり、プロボウラーの指導による障害者ボウリング教室が設けられました。全国から二〇名の障害者が参加しました。殿下は、この障害者教室から本大会で一般選手に伍して活躍するような選手が成長するのを期待したいとお考えをお持ちでした。今は、障害者大会の上位入賞者が一般選手に混じって本大会に出場する機会が設けられており、いつの日か、障害者の優勝者が現れるかも知れません。その時は天国の殿下が、「やったぜ」とお喜びになられることでしょう。

総裁としてお力添えを賜った三十八年間はまだまだ多くの思い出がありますが、紙幅に限りがあり、何分の一にも満たないものになつてしまいました。

最後に、殿下が日頃からご主張なさつてお

られたことを記して筆を擱き、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

『私は、障害者と健常者という二つの分け方をしないで、「部門別に障害を考える」ことを提唱しています。人間は目に見える障害と見えない障害を一人ひとりが多く持つています。障害のある人も色々な角度から見れば、ある部分は明らかに他の人に劣っています、この部分は通常健常者と呼ばれる人々の誰より勝れている部門が必ずあるはず。従つて、単純に健常者とか障害者などと二つに分けることは無意味なことであり、あらゆる分野で、健常者と互角或いは乗り越えてほしいと願っています。一〇〇%の障害者はいないし、一〇〇%の健常者もいません。障害の部分と健常の部分と併せ持つて生きています。これらの諸点を銘記して頂きたい。五〇%以上あれば健常者で、なければ必死になつて五〇%を超えるように努力してほしい。障害か健常かを部門別に一つ一つ頭の天辺からつま先までチェックすることが大事ですということをお啓蒙活動して欲しい』

殿下にご指導賜った事業

身体障害者スキー教室



合同運動会



宮様チャリティボウリング大会



善意のかずかず

次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、利用者及び施設に對しましても、数々のご奉仕等を賜りました事に対して、心より御礼申し上げます。

(平成二三年一〇月一日〜平成二四年九月三〇日)

(寄付金) 敬称略

○友愛十字会

秋山隆子・仲光エンジニアリング(株)佐川弘・碓まちづくりセンター大友光司・レイアロハスタジオ・碓町自治会岩崎さよ子・石井一義・中澤幸雄・日赤奉仕団碓出張所分団小川恵子・青柳・碓町町会・ミニディきぬた汐見敏治・医療法人高輪会・武田整形外科武田忠浩・世田谷ひまわりの会・天理教東京教区婦人会・JA東京中央千歳地区女性部・関東ボウリング場協会・昭和女子大学中高部生徒会・坂田淳・上井正次・中澤佳代子・株式会社福祉施設共済会・上窪精一郎・新野研介・碓教会・教会学校・新井電気工業所・石川量店石川光信・井上洋品店・井山建設(株)井上博文・大蔵住宅自治会・大蔵東部町会・おしゃれ床屋ボヌール・碓まちづくりセンタ所長大友光司・碓幼稚園園長坪井徳明・TMC通り商店街・山野小学校・リビングストアータカハシ・和響太鼓・和響太鼓

木村忠敬・株式会社GIS行谷曉雄・(有)大蔵自動車商会・圓光寺内藤壽昭・碓総合支所・(有)カイサロンスタート・(有)碓いしい・祖師谷商店街振興組合石川征男・石井アサ子・河島サト・大島弘之・浅山恵子・川上敬子・樋口絹子・濱中米子・貝塚富江

○世田谷施設関係

世田谷区IKK福祉協会・厚生車輛福祉協会・世田谷区社会福祉協議会会長飯田恭次・全国建築物飲料水管理協会東京支部・柏朋会荻野高秋・世田谷区身体障害者福祉協会会長杉田春義・世田谷区役所保健福祉部

○友愛荘

菅野昭正・矢沢秀子・新井堅司・ひまわりの会・忠生忠霊地区自治会・忠生四丁目町内会・図師町内会・別府温夫・若林進・佐藤臣一・若林貴美江・土屋節子・清水君子・三家寿会・米屋(株)(東京善意銀行経由)・(社福)中日新聞社会事業

団(東京善意銀行経由)・家族会・大谷ひろ子

○東京聴覚障害者支援センター

有限会社カインドサービス・志村城山町会・有限会社八百幹・社団法人尚友俱樂部・健栄製薬株式会社

(寄付物品) 敬称略

○友愛十字会

米谷株式会社・薄井裕子

○盆踊り

朝日新聞サービスアンカーASA大蔵・さわやか信用金庫・読売センター碓・中央東京ヤクルト販売(株)世田谷支社・堀内清子・山形渡

(奉仕活動) 敬称略

慶応義塾大学ライチウス会・天理教北多摩東部支部・若竹会・ガールスカウト東京都連盟第61団・第72団・ボーイスカウト東京都連盟第10団・碓幼稚園・碓幼稚園ママさんコーラス・碓教会教会学校・栗原美和子・成田信子・西村弘志・藪田千賀子・日赤分団・光寿会・山野美容専門学校・大蔵ふたば保育園

職員異動

平成23・4・1～平成24・3・31

○世田谷更生館

退職 生活支援員 宮嶋咲月 24・3・11

友愛園へ配置換え（転出）

生活支援員 河原恵美 23・10・1

職業指導員から職種変更

生活支援員 吉岡一樹 23・4・1

○友愛園

採用 介護支援員 佐藤公規 23・4・1

介護支援員 中村健一 24・2・13

退職 介護支援員 佐藤公規 24・1・31

介護支援員 中村健一 24・2・29

世田谷更生館より配置換え（転入）

生活支援員 河原恵美 23・10・1

友愛ホームへ配置換え（転入）

生活支援員 板垣亜紀 23・7・1

○東京聴覚障害者支援センター

採用 調理員 齋藤和代 23・5・1

看護師 寶田恵美子 23・12・1

退職 調理員 菅原みさを 23・4・30

看護師 小田 涼子 23・12・31
看護師 寶田恵美子 23・12・31

○友愛デイサービスセンター

採用 生活支援員 星野永倫 23・4・1

生活支援員 太田貴久 23・4・1

看護師 久保かおり 23・10・1

退職 看護師 佐野睦代 23・5・31

生活支援員 寺元愛貴 23・6・30

生活支援員 山中夕子 23・7・29

生活支援員 久保田美幸 24・2・29

○友愛ホーム

採用 栄養士 藤田真由美 23・8・1

退職 支援員 白井健介 24・3・31

生活相談員 笠井路子 24・3・31

友愛園より配置換え（転入）

生活相談員 板垣亜紀 23・7・1

○友愛荘

採用 看護師 小池千枝子 23・7・1

介護職員 野口淳子 23・9・1

介護職員 渡部裕美 23・9・1

看護師 河内直子 23・9・1

看護師 杉本和子 24・1・1
看護師 田島亨子 24・2・1
看護師 大内信夫 23・5・31
看護師 飯田ひろ美 23・7・31

介護職員 津田 猛 23・8・31

看護師 上原萬亀子 23・9・30

園長 片峰昭彦 23・12・31

介護職員 千葉幸治 24・1・31

看護師 杉本和子 24・2・20

介護職員 野口淳子 24・3・31

看護師 河内直子 24・3・31

看護師 田島亨子 24・3・31

○砧ホーム

採用 介護職員 服部 誠 23・4・1

介護職員 高橋香代子 23・4・1

介護職員 鈴木郷美 23・4・1

看護師 森岡 忍 23・4・1

介護職員 齋藤真文 23・10・1

介護職員 笹島丘大 23・10・1

看護師 後藤友紀 23・5・9

看護師 小泉美紀 23・5・27

介護支援専門員 武田啓子 23・6・30

介護職員 高木智範 23・9・30

介護職員 中谷良美 23・10・31
介護職員 岸川 努 23・12・31

パオより配置換え（転入）

主任介護支援員 小関英利 23・4・1

パオへ配置換え（転出）

介護支援員 管 洋輔 23・4・1

○砧デイサービスセンター

採用 介護職員 山川 満 23・4・1

介護職員 安田条乃 23・4・1

退職 介護職員 那須真紀子 23・12・31

介護職員 安田条乃 24・3・31

生活相談員から職種変更

介護職員 渡辺千夏 23・7・1

○港区立障害保健福祉センター

採用 生活支援員 高橋奈緒 23・5・1

退職 主任看護師 近藤賢子 24・3・31

機能訓練士 大畑敦子 24・3・31

機能訓練士 老沼健一 24・3・31

○工房アミ

採用 介護支援員 岩見優里 23・4・1

介護支援員 瀬野尾恵 24・1・1

退職 介護支援員 藤井るり子 23・7・31

介護支援員 玉城久子 23・12・31

○パオ

採用 生活支援員 齋藤知子 23・4・1

生活支援員 鈴木優花 23・4・1

退職 看護師 小森まどか 23・4・30

生活支援員 阿部賢雄 23・9・30

生活支援員 吉川亜紗菜 24・3・31

生活支援員 高木麻帆 24・3・31

生活支援員から昇格

副主任生活支援員 鈴木紀子 23・4・1

工房アミより配置換え（転入）

生活支援員 管 洋輔 23・4・1

工房アミへ配置換え（転出）

主任生活支援員 小関英利 23・4・1

○みなとワークアクティ

退職 生活支援員 木村円花 24・1・31

生活支援員 芦名加寿子 24・3・31

編集後記

本号は本来、三月に発行する予定でしたが、毎号巻頭言をご執筆願っている総裁殿下のご入院が何時になく長引きましたので、ご退院なさってからお願いすべきであろうと考え、発行予定を変更してご退院を心待ちにしていました。と申しますのも、殿下はこれまで十数回のご手術を克服され、不屈の精神力と耐え難いリハビリの結果、毎回お元気なお姿をお見せになつておられました。今回も間違いなくお元気でお戻りになれるものと信じていました。しかし、六月六日、一日も早いご回復を願った甲斐もなく、突然、ご薨去の訃報に私共一同は驚くと共に、当法人に賜りました幾多のご厚情に思いを致すと、無念の思いを禁じ得ません。そこで、百日祭の喪明けを待つて、殿下を偲んで追悼号を発行させていただきますことにいたしました次第です。

三十八年間のご厚恩に深く感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ゆうあい

第四十号

平成二十四年十一月三十日

発行 社会福祉法人 友愛十字会
発行人 石 井 晃

〒157-8575 東京都世田谷区砧
三丁目九番十一号

電話（〇三）三四一六一三一六一